サビエル生誕五百年

# 巡礼の道 475

藤屋侃士
（下松市幸ケ丘）

## 置かれた場所で
### ～ひまわり20周年～

先日、周南市のカトリック徳山教会の点訳音訳ボランティアグループ「ひまわり」の発足二十周年感謝の集いに参加する機会を得た。

約50人が集まった20周年感謝の集い

「ひまわり」は今から二十年前、徳山教会の婦人や小さき花幼稚園のお母さんなどで「点訳ボランティアグループ」として発足。五年後に音訳も加えて活動している。

点訳音訳だけでなく、定期的に視覚障害の人々と交流会を持ち、今年、二十年の節目を迎えた。私は下松教会に所属しているが、勤め先の山口放送が徳山教会の近くにあったため退職するまでは徳山教会に所属し、結婚式や子供の洗礼式もこの教会でした。妻が初期の「ひまわり」に関わりを持っていたので、今回、夫婦で招待を受けたのである。

驚いたのは、広島、岩国、宇部などからも視覚障害者が大勢参加されていたことだ。障害のある人のために「してあげる」のではなく、「共に歩む」という活動の結果であろう。

障害者とボランティアの皆さんの話を聞きながら「置かれた場所で」という言葉を思い浮かべた。

先日、宇部教会創立八十周年でも講演されたシスター、渡辺和子さんのベストセラー「置かれた場所で咲きなさい」。ありのままの現実を受け入れ、その中で希望を持って前向きに生きることと受け止める。

「ひまわり」のボランティア活動は自分の置かれた場所で、気負いもなく、できることを地道に続けているという印象を強く受けた。

カルメル修道会の中川博道神父様からも「自分の置かれた場所で、地に足をつけて生活の中でイエスを生きなさい」と言われたことがある。「ひまわり」の活動は、いろいろなことを考えても何ら具体的な行動もせず、派手で目立つことに目が向きがちな自分に、歩む道を教えられたような気がする。

感謝の集いのプログラムの中に視覚障害者の中村実枝さんからのメッセージがあった。彼女は私が初めて出会った視覚障害者だ。下松市のザ・モール周南内にサテライトスタジオを作り、毎日一時間、そこから放送することになった時、中村さんにレギュラーパーソナリティをしてもらった。

ザ・モール周南を単なる商業施設ではなく、ラジオ番組を通して健常者も障害者も集う場にしたいと思ったからだ。彼女は目が不自由なのに一人で当時の旭村佐々並から毎週一回、サテライトスタジオに来て、目が見えない彼女が見た世界について話してくれた。

視覚障害者という自分の置かれた境遇を受け入れ、前向きに輝いて生きているように思える。彼女は「目に見えないラジオが私にいろんなものを見せてくれる」と言い、「大切なものは目に見えない」とも言った。

感謝の集いの夜、彼女が書いた本「心をつないで」を取り出して改めて読む。彼女が自分の置かれた場所で花を咲かせているように思う。

「ひまわり」の人たちも同じように自分の置かれた場所で自然体で活動していることに強い共感を覚えた。

バザーでの「点字体験コーナー」